

＜主として専門学科において開設される各教科のうち職業に関する各教科＞

指導事例一覧

教科	科目名	言語活動の特色	単元名	分類	活動
農業	農業と環境	プロジェクト学習を通じて言語活動の充実を図る事例	トウモロコシの栽培と利用	(1)ア(i) (ii) (1)イ(i) (ii)	②③ ④⑤ ⑥
工業	工業技術基礎	実習(実験)後の結果の予測と得られた結果から、論理的に「話し合う」事例	基礎的な生産技術「生産の流れと技術(工作機械の扱い方(旋盤による加工))」	(1)イ(ii)	②③ ④⑤ ⑥
商業	ビジネス基礎	考察・討論と実習を組み合わせる実践的な力を育成する事例	ビジネスに対する心構え	(1)イ(ii)	①⑥
水産	水産海洋基礎	基礎実習を活用した言語活動の事例	基礎実習「水産・海洋生物の採集(磯採集)」	(1)ア(i) (ii) (1)イ(ii)	①② ④⑥
家庭	生活産業基礎	情報を分析・評価し、商品を企画・提案し、表現する事例	生活の変化に対応した商品・サービスの提供 アパレル商品の企画ー施設 ユニフォームの企画・提案	(1)ア(i) (ii) (1)イ(i) (ii)	⑤⑥
看護	看護臨地実習	実習体験を考察し、話し合い、発表する事例	基礎看護臨地実習 ～実習体験を通して、看護の基礎的な能力と態度を身に付けよう	(1)イ(i) (2)イ	①⑥
情報	情報産業と社会	情報技術者の責任について、情報モラルや情報セキュリティについて話し合い、発表することを通じて理解を深める事例	情報モラルと情報セキュリティについて、情報技術者が果たすべき責任を考えよう	(1)ア(i) (ii) (1)イ(i) (ii) (2)ア イ	④⑤ ⑥
福祉	介護総合演習	介護実習で体験した事例を基に課題解決能力を育成する事例	事例研究	(1)ア(i) (ii) (1)イ(i) (ii) (2)ア イ	①② ⑤⑥

「分類」「活動」の見方は、59ページを参照

- ※ 分類・・・言語の役割を踏まえ言語活動を分類したもの
- ※ 活動・・・思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動

専門教科

農業（農業と環境） プロジェクト学習を通じて言語活動の充実を図る事例

【学習活動の概要】

1 単元名 トウモロコシの栽培と利用			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・トウモロコシの育成について、プロジェクト学習法を用いた体験的、探究的な学習を通して、生徒の興味・関心を高めるとともに、科学的な見方・考え方と実践力を育成する。 ・トウモロコシの種類と特性、育成環境及び栽培に関する基礎的な知識と技術を習得させる。 ・トウモロコシ栽培の計画・管理・評価の方法を通して、プロジェクト学習の進め方を習得させる。 			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
トウモロコシの栽培について興味・関心をもち、たねまきから収穫までの栽培プロジェクトに主体的に取り組み、農業生物の育成と栽培環境について探究しようとしている。	トウモロコシの種類と特性、栽培環境の要素、利用及び計画・管理・評価に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	トウモロコシの栽培の基礎的な技術を身に付け、農業生物の育成に関するプロジェクトを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	トウモロコシの栽培の基礎的な知識を身に付け、栽培環境と関連付けて理解している。
4 取り上げる言語活動と教材			
(1) 言語活動 ①生育調査・観察結果の整理・分析			
②発表資料・発表原稿の作成			
③発表・質疑応答			
(2) 教材 トウモロコシの栽培記録			
5 単元の指導計画(全5時間)			
次 程	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査・観察結果の整理・分析 ・発表内容、方法の検討 ・発表原稿・資料の作成、準備 ・参考資料や参考写真などの収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査・観察内容から、導かれる結果や考察を記録・整理させる。(言語として)発表する内容が、図表などの資料と関連し、連携がとれるように工夫させる。 	
第2次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・発表に必要なものの準備 ・原稿内容、発表時間、プレゼンテーション方法の確認 ・想定質問と回答の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で聴衆に対してより深く理解してもらえるには、どうすればよいかを考えさせる。 	
第3次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・発表、質疑応答 ・反省 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表は、相手に理解してもらおう表現と相手の表現を理解すること、双方向の交流であることを理解させる。 	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

高等学校学習指導要領解説農業編において、農業と環境の(2)農業生産の基礎では、

プロジェクト学習法を用いて、農業生物の育成について体験的、探究的に学習させ、農業生物の種類と特性、育成環境の要素及び栽培や飼育に関する基礎的な知識と技術を習得させる。＜中略＞プロジェクトに自主的に取り組む意欲を醸成し、科学的な見方と実践力を育成する。また、プロジェクト学習の実施を通して、栽培や飼育の計画・管理・評価の方法を習得させる。

また、(4)農業学習と学校農業クラブ活動では、

- ・プロジェクト学習の実践過程は、生徒自身が、①目的を立てること（課題設定）、②目的達成のための計画を立てること（計画立案）、③計画に従って実行すること（実施）、④実行の過程や結果を検討すること（反省・評価）の4段階であることを理解させる。
- ・学習成果をより確実なものにするために、まとめは生徒個人で行うとともに、発表の機会を作ることが大切である。

以上のような記述がある。

本学習活動では、トウモロコシの生育の調査・観察の結果を整理・分析し、必要に応じ話し合い、表やグラフにまとめ、他者に分かりやすく発表・説明することにより、生徒の言語活動を活性化し、充実させることができる。また、必要に応じて、視聴覚機器を活用することも大切である。

【言語活動の充実の工夫】

毎時間ワークシート形式のレポートを課し、授業内容、実験・実習・観察・調査の結果や考察を個人でまとめるとともに、生育期間中の成長量の変化など、話し合うための課題をテーマに、班内で話し合い、意見交換し、まとめるといった言語に関わる多様な活動を経験することができる。

この単元では、上記の言語に関わる多様な活動を自分のもの（自分たちのもの）から、発表活動によって、相互に理解し、理解させることまで求めている。この双方向の理解活動によって、多くの情報を分かち合うことができ、個の伸長とともに集団の伸長につなげることが可能となる。

農業と環境におけるプロジェクト学習では学習課題が既に定められていることが多いことから、生徒に目的をよく理解させ、学級やグループのプロジェクトと並行して生徒個人のプロジェクトを設定させることで、自分自身の課題としてプロジェクトを実践させることができる。それにより、課題の設定や観察記録のデータのやり取りなど、クラス全体や班別などで、伝えた時の反応の捉え方など、規模の異なる集団に応じたコミュニケーション能力を育成することができる。

今後、農業と環境において言語活動をより充実させるために、設定課題を多様化させる必要がある。そのためには、栽培品目をトウモロコシの単作ではなくいくつかの作物を並行して栽培することや、栽培条件を多様化するなどの工夫が更に求められる。

工業(工業技術基礎) 実習(実験)後の結果の予測と得られた結果から、論理的に「話し合う」事例
【学習活動の概要】

1 単元名 基礎的な生産技術「生産の流れと技術(工作機械の扱い方(旋盤による加工))」			
2 単元の目標 基礎的な加工技術を用いた工業製品の製作を通して、生産に関する技術の基礎的な内容と生産に関わる基礎的な分析及び測定技術について取り扱い、生産技術に関する知識と技術を習得させることをねらいとする。			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
生産の流れと生産技術、基礎的な分析及び測定技術について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。	製品の考案から製作、評価に至る一連の製作過程について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、発表するなどしている。	基礎的な加工技術を用いた工業製品の製作などを通して、各専門分野の生産に関する基礎的な技術を適切に活用している。	原材料の品質検査や分析、製作途中での計測・計量、完成後の製品検査や性能検査などを正確に行うことにより、優れた品質の製品が生み出されることについて理解している。
4 取り上げる言語活動と教材			
(1) 言語活動			
1 実習(実験)結果の予測			
2 実習(実験)内容の記録			
3 実習(実験)結果についての討議			
4 実習(実験)についての報告書の作成			
(2) 教材			
工作機械の扱い方(旋盤による加工)			
5 単元の指導計画(全9時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (1)	●本時の実習(実験)について説明 ・安全確認について ・実習(実験)の内容(要点)、工程(実験過程)について、自校テキストを基に確認	・実習(実験)の前に、実際に企業などで実施されているスタンディングミーティング形式で、要点を絞り、短時間で終了するように心掛ける。	
第2次 (5)	●機械加工(旋盤加工(丸棒の加工など)) ・工作機械(旋盤)の加工準備 ・刃物、工作物の取付等 ・加工条件(送り速度、主軸回転数、切り込み)の設定等 ・旋盤加工と行程ごとに指示された加工部の測定等	・グループ内での役割を分担させ、お互いに協力しながら実習(実験)を進め、要点について記録をまとめるようにさせる。 ・加工条件や工作物の測定結果(実験結果)のグラフ等から、予測したこととの比較・検討を行い、なぜそうなったのかをグループ内で話し合わせる。	
第3次 (3)	●本時の実習(実験)のまとめ ・得られた結果について話し合い ・報告書作成の留意点について説明	・予測した結果と得られた結果について、比較・検討するなどして、話し合った内容をまとめさせる。 ・報告書の考察は、予測した結果と得られた結果の異なった原因について、図書館やICTなどを活用して調べた内容もまとめて記入させる。	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本事例は、工業技術基礎の内容の(3)基礎的な生産技術を活用した、工業科における言語活動を充実させる指導事例を示したものである。

この単元では、簡単な工業製品の製作を通して、生産に関する技術の基礎的な内容を扱うことや、具体的な事例を通して、生産に関わる基礎的な分析及び測定技術の重要性を扱うことが示されている。

工業技術基礎では、地域や学校の実態、学科の特色等に応じて、調査、実験・実習、見学、討議等を適宜取り入れ、体験的な学習を中心にするとともに、工業を取り巻く状況の変化に適切に対応できるように、人と技術との関わりや技術者倫理、環境に配慮した技術、省資源・省エネルギー等についても理解を深めさせることが大切である。

【言語活動の充実の工夫】

この単元を活用して、工業科における言語活動を充実させる工夫では、実践的な活動を取り入れた以下のような指導が考えられる。

1 実習(実験)結果の予測

実習後にどのような結果が得られるか自分の考えをまとめ、グループ内で意見を交換するなどして言語活動の充実を図るようにする。

そのためには、実習(実験)を実施する上で、担当教師からの指導後、グループ内で実習工程や実験方法について討議し、どのような結果が得られるか予測させたり、前回までの実習(実験)中に課題となっていることの解決方法等について、よりよいアイデアを提案させたりするなど、課題を明確化して実習に取り組むようにする。

2 実習(実験)内容の記録

実験(実習)中は、要点についてメモをするようにする。

また、実験(実習)中に記録したデータ等は、計算したり、表やグラフにまとめたりすることで、分かりやすく整理する。

3 実習(実験)結果についての討議

実習内容の記録から自分の考えをまとめて、ホワイトボードを活用して話し合うなど言語活動の充実を図るようにする。

そのためには、実習(実験)を実施した後、得られたデータや結果について、実習(実験)の前に予測した結果と比較・検討し、予測と異なった場合、なぜ、そのような結果となったのか、原因について批判することなくグループ内で討議し、課題を明確化し共有化を図る。



4 実習(実験)についての報告書の作成

報告書は、従前から、実習(実験)の内容、結果、考察などについて、分かりやすく要点をまとめるよう指導の充実を図っているところである。

報告書作成時、考察については、得られたデータや結果の意味を考え、情報を選択する能力を身に付けるため図書館やICTなどを活用して調査することで、読解力を養いながら、自分の考えをまとめて書くことという言語活動の充実を図るようにする。

商業(ビジネス基礎) 考察・討論と実習を組み合わせる実践的な力を育成する事例
【学習活動の概要】

1 単元名 ビジネスに対する心構え			
2 単元の目標 ビジネスマナーの意義や必要性について理解させるとともに、挨拶、礼の仕方、電話応対、来客応対など基本的なビジネスマナーを習得させる。また、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行う上での望ましい人間関係を構築することの意義や必要性及び倫理観、責任感、協調性などの豊かな人間性、自己責任や社会貢献の意識などビジネスに対する望ましい心構えや考え方について理解させる。			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・ビジネスに対する心構えについて関心をもち、ビジネスマナーの意義や必要性、基本的なビジネスマナー、望ましい人間関係構築の意義や必要性及びビジネスに対する望ましい心構えや考え方について探究しようとしている。	・ビジネスマナーの意義や必要性、基本的なビジネスマナー、望ましい人間関係構築の意義や必要性及びビジネスに対する望ましい心構えや考え方について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。	・ビジネスマナーに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、適切に活用している。 ・ビジネスに対する心構えに関する資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理している。	・ビジネスに対する心構えに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスマナーの意義や必要性、望ましい人間関係構築の意義や必要性及びビジネスに対する望ましい心構えや考え方について理解している。
4 単元の概要 本単元は、「ビジネス基礎」の内容(2)「ビジネスとコミュニケーション」のA「ビジネスに対する心構え」についてのものである。ここでは、ビジネスにおける基本的なマナー、良好な人間関係を構築することの意義や必要性及びビジネスに対する望ましい心構えや考え方を扱う。			
5 単元の指導計画(全10時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (1)	ビジネスマナーの意義や必要性について考察する。	・ビジネスマナーの意義や必要性について、日常生活の中で感じ取ったことを発表させる。	
第2次 (6)	挨拶、礼の仕方、電話応対、来客応対など基本的なビジネスマナーについて討論と実習を行う。	・教師が中心となって演示し、改善すべき点等についてグループごとに討論させる。その後、望ましいビジネスマナーについて説明し、グループごとにビジネスマナーに関する実習を行わせる。	
第3次 (3)	ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行う上での望ましい人間関係を構築することの意義や必要性及び倫理観、責任感、協調性などの豊かな人間性、自己責任や社会貢献の意識などビジネスに対する望ましい心構えや考え方について考察する。	・新聞、放送、インターネットなどを活用して具体的な事例を収集させ、生徒自らに、ビジネスの諸活動における人間関係の構築の必要性、倫理観や責任感の重要性などについて考察させるとともに、自己の考えを論述させる。	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例は、「ビジネス基礎」の内容(2)「ビジネスとコミュニケーション」のア「ビジネスに対する心構え」における来客対応の指導に関するものである。

商業科においては、地域の資源を活用した商品開発、地域産業の振興方策の考案と提案など、地域や産業界など様々な方々と接する中での学習活動が多いことから、早い段階で基本的なビジネスマナーを習得させ、その後の学習につなげることが大切となる。

本指導事例は、こうしたことを踏まえ、商業科の基礎的科目である「ビジネス基礎」において、言語活動と実習を組み合わせることで、来客対応についての実践的な力を育成しようとするものである。

【言語活動の充実の工夫】

本指導事例においては、次の流れで学習を進めることとしており、考察、討論、発表を通して来客対応についての理解を深めた上で実習を行い、それにより実践的な力を育成するよう工夫している。

① 演示の観察

企業において来客があった際の対応の場面を想定し、教師が来客対応者となって受付、案内、見送りについて演示し、それを観察する。

② 考察・討論・発表

来客対応の演示について考察したことを「演示の観察シート」に記入し、それを基にして、改善すべき点、その理由、改善策についてグループごとに討論し、クラス全体に発表する。

③ 望ましい来客対応についての確認

討論・発表したこと及び来客対応についての説明を基に、望ましい来客対応について確認する。

④ 実習

説明を受けた内容を踏まえて、グループごとに、受付、案内、見送りについての実習を行う。

⑤ 振り返り

グループごとに実習について振り返る。

言語活動については、望ましい来客対応についての気付きの場として活用している。そのため、言語活動の題材となる演示については、様々な課題のある来客対応となるように工夫している。

生徒は、演示の観察で感じ取ったことを、本単元の第1次で学んだ、ビジネスマナーの意義や必要性を踏まえてまとめ、それを基にグループごとに討論し、発表することとしている。

その後、討論・発表したことを念頭に置きながら来客対応についての説明を受けることで、理解を深めるようにしている。

最後に、言語活動を通して理解を深めた来客対応について、グループごとに実習を行い、実践的な力を高めるとともに、実習について振り返り、適切に来客対応ができたかを確認するようにしている。

演示の観察シート

学年 名前 担当 氏名

	改善すべき点	改善の理由	改善策
登	・受付係の挨拶が丁寧で、来客の要望を聞き取ることができた。	・受付係の挨拶が丁寧で、来客の要望を聞き取ることができた。	・受付係の挨拶が丁寧で、来客の要望を聞き取ることができた。
中	・案内係の案内が丁寧で、来客の要望を聞き取ることができた。	・案内係の案内が丁寧で、来客の要望を聞き取ることができた。	・案内係の案内が丁寧で、来客の要望を聞き取ることができた。
見	・見送り係の見送りが丁寧で、来客の要望を聞き取ることができた。	・見送り係の見送りが丁寧で、来客の要望を聞き取ることができた。	・見送り係の見送りが丁寧で、来客の要望を聞き取ることができた。

図 演示の観察シート



写真 実習の様子

専門教科

水産(水産海洋基礎) 基礎実習を活用した言語活動の事例

【学習活動の概要】

1 単元名		基礎実習「水産・海洋生物の採集（磯採集）」													
2 単元の目標		身近な海や内水面での磯採集を通じて、地域や時期による特徴的な水産・海洋生物の生物相や生態に興味をもたせるとともに、とる漁業に関する基礎的な知識を深め、資源管理に対する意識を高めさせることをねらいとする。													
3 単元の評価規準		<table border="1"> <thead> <tr> <th>関心・意欲・態度</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>技能</th> <th>知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水産・海洋生物の採集を通して、生物相や生態に関心をもち、水産や海洋の学習活動について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。</td> <td>水産・海洋生物の採集を通して、生物相や生態について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、採集を行う上での創造的な能力を身に付けている。</td> <td>水産・海洋生物の採集に関する基礎的・基本的な技能を身に付け、生物相や生態及び資源管理に配慮し、その技術を安全かつ適切に活用している。</td> <td>水産・海洋生物の採集に必要な基礎的・基本的な知識を身に付け、生物相や生態について理解している。</td> </tr> </tbody> </table>		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	水産・海洋生物の採集を通して、生物相や生態に関心をもち、水産や海洋の学習活動について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	水産・海洋生物の採集を通して、生物相や生態について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、採集を行う上での創造的な能力を身に付けている。	水産・海洋生物の採集に関する基礎的・基本的な技能を身に付け、生物相や生態及び資源管理に配慮し、その技術を安全かつ適切に活用している。	水産・海洋生物の採集に必要な基礎的・基本的な知識を身に付け、生物相や生態について理解している。				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解												
水産・海洋生物の採集を通して、生物相や生態に関心をもち、水産や海洋の学習活動について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	水産・海洋生物の採集を通して、生物相や生態について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、採集を行う上での創造的な能力を身に付けている。	水産・海洋生物の採集に関する基礎的・基本的な技能を身に付け、生物相や生態及び資源管理に配慮し、その技術を安全かつ適切に活用している。	水産・海洋生物の採集に必要な基礎的・基本的な知識を身に付け、生物相や生態について理解している。												
4 取り上げる言語活動と教材		<p>(1) 言語活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習内容についてのオリエンテーションの要点整理及び事前打合せ 2 実習の記録（観察野帳への記録） 3 実習結果についての討議及び発表 4 報告書（ノート、観察野帳）の作成 <p>(2) 教材</p> <p>水産・海洋生物の採集（磯採集）</p>													
5 単元の指導計画(全8時間)		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学 習 活 動</th> <th>言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1次 (2)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●本時の実習について（事前指導） ○担当教師からの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・磯採集の意義と目的について ・採集・観察方法及び採集物の輸送方法について ・安全対策及び資源管理上の留意事項 ・危険生物についての学習 ○グループでの事前調査 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教師の説明内容の要点をまとめる中で、実習の意義を理解させる。 ・事前調査では文献などによるもののほか、各自の知識を出し合う中で、グループ内でのコミュニケーションを図らせ、関心や意欲を高めさせる。 </td> </tr> <tr> <td>第2次 (4)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●水産・海洋生物の採集（磯採集） ○担当教師からの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・採集における留意事項の確認 ○採集活動 <ul style="list-style-type: none"> ・観察・採集等 ・観察野帳への記録 ・採集物の管理及び輸送 ・採集物の処理等 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・開始前は、安全面や環境への配慮等、要点を絞り、短時間で指導を行うよう心掛ける。 ・グループ内での役割を分担し、お互いに協力しながら実習を進め、記録をまとめさせるようにする。 ・観察・採集で得たことを話し合わせ、情報の共有化を図らせることで思考力及び判断力を育む。 </td> </tr> <tr> <td>第3次 (2)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●本時の実習のまとめ ・採集・観察結果を踏まえた生物相や生態についての話し合い（グループ） ・観察・採集結果から得られたことについての発表及び意見交流（全体） ・担当教師から、観察野帳及びノート提出について説明 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・実習のまとめとして、実習時に使用した観察野帳をまとめさせるとともに、その結果を基に、生物相や生態及び環境などについて討議を行い、知識や理解を深めさせる。 ・討議内容をまとめ発表を行うとともに、ノートへ記入の上、観察野帳とともに提出させる。 </td> </tr> </tbody> </table>			学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	第1次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の実習について（事前指導） ○担当教師からの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・磯採集の意義と目的について ・採集・観察方法及び採集物の輸送方法について ・安全対策及び資源管理上の留意事項 ・危険生物についての学習 ○グループでの事前調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教師の説明内容の要点をまとめる中で、実習の意義を理解させる。 ・事前調査では文献などによるもののほか、各自の知識を出し合う中で、グループ内でのコミュニケーションを図らせ、関心や意欲を高めさせる。 	第2次 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ●水産・海洋生物の採集（磯採集） ○担当教師からの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・採集における留意事項の確認 ○採集活動 <ul style="list-style-type: none"> ・観察・採集等 ・観察野帳への記録 ・採集物の管理及び輸送 ・採集物の処理等 	<ul style="list-style-type: none"> ・開始前は、安全面や環境への配慮等、要点を絞り、短時間で指導を行うよう心掛ける。 ・グループ内での役割を分担し、お互いに協力しながら実習を進め、記録をまとめさせるようにする。 ・観察・採集で得たことを話し合わせ、情報の共有化を図らせることで思考力及び判断力を育む。 	第3次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の実習のまとめ ・採集・観察結果を踏まえた生物相や生態についての話し合い（グループ） ・観察・採集結果から得られたことについての発表及び意見交流（全体） ・担当教師から、観察野帳及びノート提出について説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習のまとめとして、実習時に使用した観察野帳をまとめさせるとともに、その結果を基に、生物相や生態及び環境などについて討議を行い、知識や理解を深めさせる。 ・討議内容をまとめ発表を行うとともに、ノートへ記入の上、観察野帳とともに提出させる。
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点													
第1次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の実習について（事前指導） ○担当教師からの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・磯採集の意義と目的について ・採集・観察方法及び採集物の輸送方法について ・安全対策及び資源管理上の留意事項 ・危険生物についての学習 ○グループでの事前調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教師の説明内容の要点をまとめる中で、実習の意義を理解させる。 ・事前調査では文献などによるもののほか、各自の知識を出し合う中で、グループ内でのコミュニケーションを図らせ、関心や意欲を高めさせる。 													
第2次 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ●水産・海洋生物の採集（磯採集） ○担当教師からの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・採集における留意事項の確認 ○採集活動 <ul style="list-style-type: none"> ・観察・採集等 ・観察野帳への記録 ・採集物の管理及び輸送 ・採集物の処理等 	<ul style="list-style-type: none"> ・開始前は、安全面や環境への配慮等、要点を絞り、短時間で指導を行うよう心掛ける。 ・グループ内での役割を分担し、お互いに協力しながら実習を進め、記録をまとめさせるようにする。 ・観察・採集で得たことを話し合わせ、情報の共有化を図らせることで思考力及び判断力を育む。 													
第3次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の実習のまとめ ・採集・観察結果を踏まえた生物相や生態についての話し合い（グループ） ・観察・採集結果から得られたことについての発表及び意見交流（全体） ・担当教師から、観察野帳及びノート提出について説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習のまとめとして、実習時に使用した観察野帳をまとめさせるとともに、その結果を基に、生物相や生態及び環境などについて討議を行い、知識や理解を深めさせる。 ・討議内容をまとめ発表を行うとともに、ノートへ記入の上、観察野帳とともに提出させる。 													

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本事例は、「水産海洋基礎」の内容の(3)基礎実習を活用した、水産科における言語活動を充実させる指導事例を示したものである。

この単元では、生物の採集等の基礎実習を取り扱い、海、水産物及び船に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに、集団行動を通して、水産や海洋への興味・関心を高め、規律や規範意識などを涵養することをねらいとしている。

「水産海洋基礎」では、水産や海洋に関する学習の導入を図る基礎的な知識と技術を、実験・実習、見学及び実習船による体験乗船等の実際の、体験的な学習を通して、海、水産物及び船の全体を概観する中で習得させるとともに、水産業や海洋関連産業に従事するものとしての使命や責任について考えさせ、水産や海洋に関する関心とその学習への意欲を高め、水産業や海洋関連産業が食生活をはじめ国民生活の中で果たしている役割を理解させることをねらいとしている。

【言語活動の充実の工夫】

この単元を活用して、水産科における言語活動を充実させる工夫では、以下のような指導が考えられる。

1 実習内容についてのオリエンテーションの要点整理及び事前打合せ

実習を実施する上で、担当教師からの指導後、グループごとに実習内容や留意事項等について要点をまとめ活動内容の理解を深める。また、実習に関連する事項についてあらかじめ調べさせたり、各自の経験を基に予想を立てさせたりするなどグループ討議を通して結果についての予想を立てさせる。身近な水域での生物相や生態などについて、各自の考えや観測・採集時のアイデアを出し合う中で課題を明確化し共有化を図るようにする。話し合いを通して多様な意見やアイデアを考えさせる中で、自分の考えをまとめて話すことについての言語活動の充実を図るようにする。

2 実習の記録（観察野帳への記録）

実習中は、観測・採集の詳細について観察野帳に記録するように心掛ける。

記載の際には、事後に誰もが理解しやすいように、その場の状況や観測地点などについてスケッチを加えるなど、分かりやすく整理させる。適時結果をまとめ、要約することに加え、創作、編集を行うなど記録をとることを通して、書くことについての言語活動の充実を図るようにする。

3 実習結果についての討議及び発表

実習実施後、得られた結果を基に、身近な水域の生物相や生態、環境との関連、資源の状況などについて討議させ、どのようなことが課題としてあるのか明確化し共有化を図るようにさせる。自らの目を見た事項に加え、グループ討議での結果を基に、自分の考えをまとめ、発表を行う。討議を通して自分の考えをまとめて分かりやすく話すことについての言語活動の充実を図るようにする。

4 報告書（ノート、観察野帳）の作成

ノートや観察野帳等の報告書については、従前から、誰が読んでも分かるように、まとめるよう指導の充実を図っているところである。

報告書作成時、自分の考えを整理し、実習結果についての解説を加えたり、討議結果をまとめたり編集活動を行うことで、分かりやすい報告書を作成させることができる。このように編集を行うなどの工夫を加えることを通して、書くことについての言語活動の充実を図るようにする。



【学習活動の概要】

<p>1 単元名 生活の変化に対応した商品・サービスの提供 アパレル商品の企画－施設ユニフォームの企画・提案</p>															
<p>2 単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品企画に基づいて、コンセプトやデザイン、販売方法を効果的な企画書としてまとめ、それに基づいて、ユニフォームの製作行程を計画し、ファッションショーとして発表する。 サンプル製作の流れに基づいて、デザインした作品を製作する。 アパレル商品の企画と生産の流れを理解する。 															
<p>3 単元の評価規準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>関心・意欲・態度</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>技能</th> <th>知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アパレル産業における商品の企画、生産、販売方法に関心をもち、新しい発想を産み出そうとしている。</td> <td>設定したターゲットに基づいて商品企画を進める活動を通して、課題を見付け、解決を目指して考え、工夫している。</td> <td>商品企画に基づいて、コンセプトやデザイン、販売方法について情報を収集・整理することができる。</td> <td>アパレル産業における商品の企画、生産、販売方法について理解している。</td> </tr> </tbody> </table>				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	アパレル産業における商品の企画、生産、販売方法に関心をもち、新しい発想を産み出そうとしている。	設定したターゲットに基づいて商品企画を進める活動を通して、課題を見付け、解決を目指して考え、工夫している。	商品企画に基づいて、コンセプトやデザイン、販売方法について情報を収集・整理することができる。	アパレル産業における商品の企画、生産、販売方法について理解している。				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解												
アパレル産業における商品の企画、生産、販売方法に関心をもち、新しい発想を産み出そうとしている。	設定したターゲットに基づいて商品企画を進める活動を通して、課題を見付け、解決を目指して考え、工夫している。	商品企画に基づいて、コンセプトやデザイン、販売方法について情報を収集・整理することができる。	アパレル産業における商品の企画、生産、販売方法について理解している。												
<p>4 取り上げる言語活動と教材</p> <p>(1) 言語活動 グループ内での調査や意見交換等を通して、自らが企画した商品を発表する。</p> <p>(2) 教材 施設ユニフォームのデザイン</p>															
<p>5 単元の指導計画(全20時間)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学 習 活 動</th> <th>言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1次 (6)</td> <td>○県内の施設を訪問し、展示内容の調査や施設員へのインタビューとともに、ユニフォームを写真にし、レポートを作成する。</td> <td>・レポートの中に「企画の流れ」を提示し、マーケティング(市場調査)の重要性を理解させる。</td> </tr> <tr> <td>第2次 (1 2)</td> <td>○調査施設ごとにグループを作り、各施設の調査報告会を行う。(発表原稿と発表シートを作成する) ○グループでユニフォームの商品企画をする。インターネットや書籍等を利用して、関連資料を収集する。</td> <td>・個人のレポートを基にグループ分けをする。発表原稿と発表シートを準備し、字の大きさや見やすさ、イメージ等を伝えるためのイラストの利用等について考えさせ、発表を工夫させる。 ・施設調査レポートに加え、企画に必要な資料を補足する。デザインを考えさせる際は、説得力のある説明ができるように助言する。</td> </tr> <tr> <td>第3次 (2)</td> <td>○ファッションショーと企画商品のプレゼンテーションを行う。</td> <td>・機器を有効に使い、企画を分かりやすく発表できるように工夫させる。発表を適切に評価するための自己評価及び相互評価シートを準備する。</td> </tr> </tbody> </table>					学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	第1次 (6)	○県内の施設を訪問し、展示内容の調査や施設員へのインタビューとともに、ユニフォームを写真にし、レポートを作成する。	・レポートの中に「企画の流れ」を提示し、マーケティング(市場調査)の重要性を理解させる。	第2次 (1 2)	○調査施設ごとにグループを作り、各施設の調査報告会を行う。(発表原稿と発表シートを作成する) ○グループでユニフォームの商品企画をする。インターネットや書籍等を利用して、関連資料を収集する。	・個人のレポートを基にグループ分けをする。発表原稿と発表シートを準備し、字の大きさや見やすさ、イメージ等を伝えるためのイラストの利用等について考えさせ、発表を工夫させる。 ・施設調査レポートに加え、企画に必要な資料を補足する。デザインを考えさせる際は、説得力のある説明ができるように助言する。	第3次 (2)	○ファッションショーと企画商品のプレゼンテーションを行う。	・機器を有効に使い、企画を分かりやすく発表できるように工夫させる。発表を適切に評価するための自己評価及び相互評価シートを準備する。
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点													
第1次 (6)	○県内の施設を訪問し、展示内容の調査や施設員へのインタビューとともに、ユニフォームを写真にし、レポートを作成する。	・レポートの中に「企画の流れ」を提示し、マーケティング(市場調査)の重要性を理解させる。													
第2次 (1 2)	○調査施設ごとにグループを作り、各施設の調査報告会を行う。(発表原稿と発表シートを作成する) ○グループでユニフォームの商品企画をする。インターネットや書籍等を利用して、関連資料を収集する。	・個人のレポートを基にグループ分けをする。発表原稿と発表シートを準備し、字の大きさや見やすさ、イメージ等を伝えるためのイラストの利用等について考えさせ、発表を工夫させる。 ・施設調査レポートに加え、企画に必要な資料を補足する。デザインを考えさせる際は、説得力のある説明ができるように助言する。													
第3次 (2)	○ファッションショーと企画商品のプレゼンテーションを行う。	・機器を有効に使い、企画を分かりやすく発表できるように工夫させる。発表を適切に評価するための自己評価及び相互評価シートを準備する。													

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例の指導事項は、次のとおりである。

(2) 生活の変化に対応した商品・サービスの提供

イ 商品・サービスの開発及び販売・提供

(内容の範囲や程度)

内容の(2)のアについては、消費者の多様なニーズをとらえる調査方法や結果を商品開発等に活用する方法などを扱うこと。イについては、身近で具体的な事例を取り上げ、商品・サービスの企画、開発から生産、販売・提供に結び付けていく仕組みを扱うこと。ウについては、商品やサービスの販売・提供に関する法規を扱うこと。

【言語活動の充実の工夫】

夏休み ① 施設調査

○商品企画に当たってはあらかじめ具体的な施設・着用者（ターゲット）を指定し、各施設のイメージを損なわないデザインにするという条件を加える。マーケティング(事前調査)の重要性を理解させ、「ユニフォームに求められるもの」を施設ごとに把握し、まとめさせる。

2学期 ② 調査報告会

○個人で調査したレポートを基に、ユニフォームの条件などについて項目を整理してグループ内で報告する。これを集約し、グループで発表原稿と発表シートを作成し、クラス内で報告会を実施する。キーワードを出させることで、商品企画におけるコンセプトの説明が明確になるようにする。

③ ブランド設立

○マーケティング及び報告会での相互評価を基に企画書を作成する。基本コンセプトやデザインを現実的で効果的な企画書としてまとめる。企画書に基づき、それぞれの特色を生かして役割分担を行い、協力してユニフォームの製作をし、プレゼンテーション資料にまとめる。

3学期 ④ ファッションショー及びプレゼンテーション

○資料や自らの企画を分かりやすくまとめ、機器を有効に使って企画を提案する。

本事例は、個人のレポートを基に、グループ活動を展開する。また、報告会やプレゼンテーション、相互評価を行うことで、他者の優秀な作品に触れ、自らの学習意欲を高めることにもつながる。



これらの学習を通して、生徒は「自分の思いや考えを的確に伝えることの難しさ」や「相手の意見を尊重し協力することの大切さ」を実感する。さらに、企画した提案内容を施設へ発信することで、学習内容を充実・発展させることができる。



看護(看護臨地実習) 実習体験を考察し、話し合い、発表する事例

【学習活動の概要】

1 単元名 基礎看護臨地実習 ～実習体験を通して、看護の基礎的な能力と態度を身に付けよう			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会における医療施設の機能と看護の役割を理解する。 ・患者の療養環境、入院生活および患者の身体的・精神的・社会的側面を理解しようとする。 ・看護者として患者との基本的な関わり方や態度を理解する。 			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技術	知識・理解
看護師の活動や患者の療養生活・入院生活に関心をもち、看護者としての基礎的な能力を積極的に身に付けようとしている。	看護の役割、患者の総合的な理解、看護者としての基本的な態度について考察を深め、適切に判断し、まとめて発表している。	看護師の活動や患者の療養環境・入院生活を見たり、患者の訴えを聞いたり、客観的に観察したことを整理することができる。	医療施設の機能や看護の役割、患者の療養環境・入院生活、看護者としての基本的な態度について理解している。
4 単元の概要			
<p>本単元は生徒にとって初めての臨地実習であり、十分な学習成果を挙げるためには事前指導が重要である。事前指導で実習のイメージ化を図り、実習期間中及び実習後は観察及び体験したことの意味を既習の学習と関連付けて考えさせ、今後の学習につなげていく。また、互いの学びを発表し合い、共有することで多様な思考や表現があることに気付かせるとともに、他者に分かりやすく伝えるという、基本的な能力も身に付けていく。</p>			
5 単元の指導計画(全35時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (2)	実習オリエンテーションを受ける。 (実習目標、内容、記録、注意事項など) よく見られる事例を基に、必要な援助を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地での学習のため、言動の基本的な注意事項を再確認する。 ・実際の患者をイメージしながら考えるよう助言する。 	
第2次 (3 2)	数カ所の施設に分かれて臨地実習を行う。 ・実習体験などを通して医療施設の機能、看護の役割、患者の療養環境・入院生活、患者の全体像について考える。 ・患者との会話を通じて、看護師に必要なコミュニケーション力や態度について考える。 ・毎日、学んだことを発表し、意見交換し、記録する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習体験を振り返り、既習内容と関連付けて総合的に考えるよう助言する。 ・会話場面を振り返り、看護師と生徒との違いとその理由について考えさせる。 	
第3次 (1)	校内で班ごとに実習での学習成果を発表し、意見交換を行う。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・班及び全体で多様な患者とその対応を知り、その理由について意見交換し、考えを深めさせる。 	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

「看護臨地実習」全体の目標は次のとおりである。

看護に関する各科目において習得した知識と技術を臨床の場で活用し実践する経験を通して、看護観をはぐくみ、問題解決の能力を養うとともに、チーム医療に携わる様々な職種の役割及び保健医療福祉との連携・協働について理解し、臨床看護を行うために必要な能力と態度を育てる。

その中で基礎看護臨地実習については、解説の中で以下のように示されている。

看護実践の基礎として必要な医療施設等の機能と看護の役割、患者の総合的な把握及び看護におけるコミュニケーションの重要性、患者の状態に応じた日常生活の援助の方法を扱うこと。

基礎看護臨地実習は、看護師養成を行う学科の場合は合計5単位行わなければならない。本事例はそのうちの1単位分であり、主に上述の下線部について指導する。

【言語活動の充実の工夫】

○事前指導

臨地でよく見られる事例を用いて患者像や必要な援助を既習の学習内容と関連付けて考えさせ、患者の生活や看護の役割についてイメージ化を図る。

○実習期間中

指導は引率教師と実習施設の指導者で連携して行う。

- ① 1日の実習で、1つの課題に焦点を当てて学習する。
- ② 1日の実習終了時に互いの体験と考察を班ごとに発表し、意見交換をして理解を深める。
- ③ 課題により、実習で体験した主な場面を再構成して、振り返り、さらに考察を深め、記録にまとめる。

○実習終了後

実習期間中に作成した実習記録を基にして、患者の理解や看護師の役割などの視点から班ごとに学習成果を発表し、クラス全体で意見交換を行う。

ワークシート

【事例】

80代の女性一人暮らし。左大腿骨頸部骨折で手術…膀胱留置カテーテル挿入中。左下肢の内転禁止。車椅子乗車可能。入浴は許可されていない。洗髪は週1回だが、前は発熱のため実施していない。皮膚が乾燥し、爪で引っかいている。テレビをつけたままにし、「寂しいから…」という。食事は常食のさざみ食、セッティングすれば摂取可能…

【患者像をイメージしてみよう！】



【患者に必要な援助を考えてみよう！】

- ① 洗髪…2週間洗っていないし、発熱して汗もかき不快
- ② 清拭…体もかゆいし、保湿クリームをぬる。
- ③ 車椅子で散歩…「寂しい」と言っている。気分転換し、話をする。…

生徒の実習記録 課題:コミュニケーション

【今日の目標】患者と楽しく、明るい笑顔で会話し、失礼のないようにする。

①看護師と患者・家族		②自分と患者・家族	コミュニケーションについて考えたこと
Ns「朝食はとれましたか？」	←ここで食の進み具合や患者の顔色をみる	自分「ペットを飼っているんですか」	まず、なぜコミュニケーションが大切なのかを考えました。患者は見舞い客と看護師以外に、あまり人と話す機会がありません。見舞い客とは…(略)…、自由な会話ができます。一方看護師に対して患者は、自分の症状や気分を訴えるのがほとんどです。私は…(略)…看護師から具合をうかがったり、困ったことがないか聞いたり、外で起こったことや日常的な会話をしていたほうがうまくいくなと思いました。また…(略)…天気の話からさりげなく睡眠状態を聞いたり、部屋の写真や小物から、過去や家族のことも聞くことができ…
pt「はい、全部食べました」		患者「トイレ・ブードルを飼っています」	
Ns「昨日の夜はどうでした」	←看護師が見ていない時の事を聞く。不具合がないか	自分「わんちゃんですか！私好きなんです」	
pt「トイレが近くなりました」		患者「あらそうなの？でも年をとってから犬の世話って大変なのよね。散歩もいかなきゃいけないし」	
Ns「じゃあ眠れなかったでしょう」	←睡眠時間の確認	…趣味や好きなものを中心に話をした。その中でも患者は自分から日頃の不安などを打ち明けていた…	
pt「いいえ、大丈夫でした」			
Ns「あ、これはお孫さんの写真ですか？」	←明るい話題を見付け、話を聞く…		
pt「そうなの～。可愛くて…」			

【反省・感想】

患者と話す時、緊張のせいか笑顔を作るのが大変でした。でも、いざ患者と話してみると自然に笑顔になっていき、話題によって表情を変えて話を進めることができました。患者もコロコロと表情が変わって、笑ったり、真剣な表情になったりしていたので気分の悪さはなさそう…

本事例は実際の看護師や患者と関わる、実践的な言語活動の場を活用した授業となっている。生徒はこの体験を通じて、看護における言語活動が専門性の高い観察を起点とし、他者に分かりやすく伝える報告、記録が重要であることを理解する。また、自分の話し方や聴き方の工夫や配慮により、患者によい作用を及ぼしたと実感できると、学習意欲が高まりより主体的な学習につながる。

専門教科

情報(情報産業と社会) 情報技術者の責任について、情報モラルや情報セキュリティについて話し
【学習活動の概要】 合い、発表することを通じて理解を深める事例

1 単元名		情報モラルと情報セキュリティについて、情報技術者が果たすべき責任を考えよう	
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・情報メディアをよりよく活用し、情報産業の発展に積極的に寄与しようとする。 (関心・意欲・態度) ・情報社会において、情報技術者としてどのような責任を果たすべきか考え、知的財産の適切な取扱いをすること。 (思考・判断・表現) ・知的財産である映像ファイルや音楽ファイルの適切な管理・運用ができること。 (技能) ・情報メディアで提供される情報が知的財産であることを理解すること。 (知識・理解) 			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報メディアを活用し、情報産業の発展に寄与しようとしている。	情報技術者として、どのような責任を果たすべきか考えて情報発信している。	知的財産である映像ファイルや音楽ファイルの適切な管理・運用ができている。	情報メディアで提供される情報が知的財産であることを理解している。
4 取り上げる言語活動と教材			
(1) 言語活動 情報技術者として、情報産業の発展に寄与する際の責任について話し合い、まとめたことを発表する。			
(2) 教材 Webブラウザによる検索情報 (コンピュータ、情報通信ネットワーク)			
5 単元の指導計画(全4時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報メディアが提供するサービスの種類や特徴について把握する。 ・知的財産権(著作権)の概要について把握する。 ・グループ(5人)に分かれ、司会役をたて、グループ内でインターネットの映像配信サービスの提供者と利用者の立場で「利点」や「課題」について討議し、内容をまとめる。 ・まとめた意見を全体に発表する。 ・再びグループに分かれ、音楽ファイルの複製について、音楽の配信企業の「情報技術者」と「利用者」の立場で「課題」と「改善策」について討議し、意見をまとめ、再び全体に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地デジ、インターネット、携帯電話などの情報メディアで提供されている音楽や映像の配信サービスの事例を調べ、特徴を捉えさせる時間を確保する。 ・3次で行う討議のために、著作隣接権なども含めて詳細に調べるよう助言する。 ・映像配信サービスの提供者と利用者それぞれの立場における「利点」と「課題」について、根拠を明らかにするよう助言する。 ・発表のために、考え方を簡単な図に示すなどの工夫を促す。また、発表の際は、質疑応答でさらに問題点などを深められるよう配慮する。 ・「技術者」と「利用者」それぞれの立場に分かれて再度意見交換することにより、情報モラルの重要性について深化・定着を図る。 	
第2次 (1)			
第3次 (2)			

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

「情報産業と社会」では、情報産業について興味・関心を高め、情報産業の発展に寄与する能力と態度を育てる。本指導事例の指導事項は次のとおりである。

イ 情報モラルと情報セキュリティ

(「情報産業と社会」 内容の(3))

この指導事項を指導するに当たって、内容の取扱いにおいて次のような言語活動への特段の配慮が示されている。(主に下線部)

イ 指導に当たっては、社会の情報化の進展が生活に及ぼす影響について具体的な事例を通して理解させるとともに、情報産業が社会の情報化に果たす役割の重要性について考えさせること。また、情報産業における情報モラルについて討議するなど生徒が主体的に考える活動を取り入れること。

(「情報産業と社会」 内容の取扱いの(1))

【言語活動の充実の工夫】

単元の指導計画に示したように、情報モラルや情報セキュリティの基礎的な知識を理解させるためには、立場の異なった者が互いに討議(熟議)する場面設定をすることが効果的である。

討議の中では、課題の解決方法やリスクに対する回避策などの考え方を整理させるため、生徒の実態に応じて図などを用いて意見を簡略化して示すなど、伝え方の工夫を助言するとよい。

本指導事例における言語活動では、

- ① 情報メディアの種類や特徴を知る。
- ② 知的財産権と著作権の概要を知る。
- ③ グループで討議し、意見をまとめる。
- ④ グループごとに全体に向けて発表する。
- ⑤ 一人一人が考えをまとめる。
- ⑥ 別の立場で再度③～⑤のグループ討議を行う。

という学習過程をとっており、各学習過程において次の配慮が必要である。

①及び②は、③～⑥を行うための素地となる知識を獲得する学習活動であり、生徒の実態や学習到達度に配慮した時間設定が必要となる。

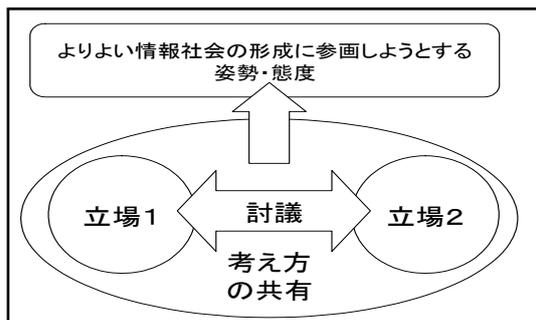
③では、司会等の役割を決めて異なる立場を尊重しながら討議させる配慮も必要である。

④では、模造紙に書いてまとめる、ソフトウェアを用いてデジタル情報としてまとめるなど、意見のまとめ方・表現方法を工夫させる必要がある。

⑤では、他の意見等を踏まえ自分の知識・理解を深めるための時間が必要である。

⑥で再度のグループ討議を行うのは、立場を変えて再度討議を行うことで、自分の意見を深化・定着させる意図がある。生徒の役割を変更するなどの工夫があるとよい。

情報産業の発展を担う情報技術者が遵守すべき情報モラルや情報セキュリティは、法的、技術的に様々な課題と緊密に関わり合っているが、それらの知識を記憶させるだけの指導に偏ることなく、情報技術者として情報や情報技術を提供する側と利用する側、それぞれの立場で討議し、意見等をまとめ、発表するなどの言語活動を重視した学習が大変有効な指導法である。



福祉(介護総合演習) 介護実習で体験した事例を基に課題解決能力を育成する事例

【学習活動の概要】

1 単元名 事例研究			
2 単元の目標 介護実習を通して、事例研究を主体的に行い、問題解決能力や自発的・創造的な学習態度を身に付ける。			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
実習で体験した事例を通して、自ら課題を見付け、問題解決に意欲的に取り組もうとしている。	問題解決に向けた情報を選択、分析、考察を行うことができる。	介護実習の振り返りを通して、自己を客観的に見つけ、文章にまとめることができる。	他者の考えを多角的に捉え、さらに自分の考えを深めながら、得た知識を身に付けようとしている。
4 取り上げる言語活動と教材 総合的な介護活動の体験から得た事例を基に課題を発見し、その事例を取り上げる意味、事例に関わる利用者の心理や生活状態、事例への対処方法などを分析し、求められる介護の内容と対応方法、活用できる社会資源などについて考えさせ、個人やグループで発表を行うことにより、さらに考えを深めていこうとするものである。また、学習の成果を発表させる機会を多く設けることにより、生徒の表現力などを身に付けさせ、介護実習の事前・事後指導における学習の定着を図ることを目指した構成となっている。			
5 単元の指導計画 (全35時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (10)	○前時の実習の中で、利用者の心理や生活状態における課題を挙げ、ワークシートにまとめグループで検討する。 〈ワークシートの内容〉 ・実習を通しての問題点・ケースの概要 ・個人の解決方法・グループの解決方法等	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録を基に、振り返りながら課題を見付け、必要な情報を取り出し、簡潔にまとめるよう指導・助言する。 ・ワークシートを利用し、メンバーの意見を参考にしながら、新たに気付いたことや考え方などをまとめさせる。 ・問題点の把握から解決方法まで一貫性のあるものになるよう指導・助言を行いながら進める。 	
第2次 (10)	○様々な事例(身体症状や介護場面の設定別の事例)を挙げ、グループで生活課題を検討し発表する。 (※1時間に1事例程度とする)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で発表できるよう、発表原稿は要点のみ箇条書きでまとめさせる。 	
第3次 (15)	○介護実習の介護過程の実践における個別援助計画を基にレポートを作成し、事例研究の発表を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで考えた方法などを基に、次の実習をどのように取り進むかポイントを絞って目標や手立てを発表させる。 	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

「高等学校指導要領 第3章 福祉 第6の3の(1)のイ」において、「介護実習の事前・事後指導として、主体的に実習に臨む態度を身に付けさせ、自己の課題を明確化するとともに、介護従事者としての意識付けを図るなど効果的な指導を行うこと」と示している。

また、「高等学校学習指導要領解説 福祉編」30ページには「介護実習の事後指導に当たっては、介護実習のまとめなどを通して、各自の実習の成果や課題を明確にさせ、実習における介護技術やコミュニケーションなどについて評価させることで、介護実習の達成感をもたせることが大切である」とある。

本事例は、自己の課題を明確化するとともに、実習を通して経験したことを振り返り、集団で考えを深め、意見を交換し、発表することにより明確な目標をもちながら実習を行うことで、介護従事者としての意識付けを目指したものである。

【言語活動の充実の工夫】

○ 施設実習を通して自ら課題を発見し、経験した事例を簡潔に文章にまとめる活動

実習記録を基に必要な情報を精選させ、他者でも理解できるように体験したことを分かりやすく簡潔にまとめさせる。

○ 論理的根拠を基にグループで話し合う活動

情報の共有化を図るとともに、納得する根拠を挙げ、考えや意見が一貫しているか助言しながら進めていく。

○ グループの意見をまとめ全体で発表する活動

発表に当たって、「自分の言葉」で話すためには、自分が伝えたいことをきちんと理解していることが大切である。自分が伝えたいことをまとめる作業は、自分が何を感じているのか、どういった考えを持っているのかを検証していくことであり、自分との対話が必要である。より考えを深めていくためには、情報を整理しながら、自分の考えや意見→主な内容→理由など筋道を立て、どこにポイントを絞るかを考えながら発表することも大切である。

また、単に原稿を読むのではなく、自分の声の大きさやスピードを変えること、話す「相手の存在」を意識したりすることで、学級全体にも自分の考えや意見を伝えることができる。このように「自分の言葉」で発表することは、コミュニケーション能力を高めることにもつながっていく。

介護実習をその場限りで終わらせてしまうのでは十分な学習効果を得ることは難しい。しかし、施設における介護実習を通して体験したことを振り返り、分析、考察、発表する機会を設けることにより知識と技術の深化を図ることができた。

本事例のように、話し合いや発表などの言語活動を取り入れていくことは、問題解決能力や自発的・創造的な学習態度を身に付けることにつながり、目標の達成や学習意欲を高めるために効果的であると感じた。

また、一連の流れを通して思考力、論理的に考え判断する力、表現力を身に付けることが期待できる。

生徒によるワークシート（第1次）の例

■実習中に疑問に思ったことや困ったことはありますか？
入浴などの行為を拒否する利用者への対応
■事例（利用者の状況等）
Sさん男性87歳は、軽度の認知症である。手は動かせるが、自分で歯磨きはできないなど、麻痺はないが失行がみられる。先日の実習で、実習担当者に「Sさんを入浴場で連れてきて下さい。」と頼まれたので、Sさんに「お風呂に入りましょう」と話したところ、「入りたくない」と言われた。「気持ちいいから入りましょう」といったが、Sさんは無言のままベッドに寝ていた。どうしていいのかわからず、沈黙がずっと続いた。
■あなたの対処法
沈黙の後、「そうですね、入らないと身体が不潔になりますよ」と言ってしまった。(Sさんの不安を無視するような態度をとってしまった)
■どうすれば良かったのか
・Sさんが入浴したくない理由を考える。 ・Sさんが入れないのか、入らないのかを考える。
■改善方法をみんなで考えよう！
・「お手伝いしますから安心して下さい」などと声をかけ、不安を取り除く。 ・Sさんが興味のある話をして、モチベーションをあげてから、「入浴しましょう」ともう一度声をかけてみる。

学級内での発表の様子



専門教科